

【2024 年最後】

死刑と司法を考える～プリズンアカデミーカフェ in 青猫書

房

12月15日(日) 17:00～19:30(受付 16:30)

この国の「無期懲役」を考える

プリズンアカデミーカフェ in 青猫書房から1冊の本が生まれました!

ゲスト: 木原育子さん (東京新聞記者・『服罪』著者)

会場 青猫書房(東京都北区赤羽 2-28-8) 03-3901-4080

アクセス JR「赤羽駅」北改札東口徒歩 10分 <https://aoneko-shobou.jp/>

外口南北線「赤羽岩淵」駅出口 1 番徒歩 10分

参加費 1000 円/25 歳までユース割、生活困窮の方、半額

主催・予約 いのちのギャラリー 090-9333-8807(市原)

ゲストからのメッセージ・・・「人の精神に最も効果を及ぼすのは、刑罰の強さではなく、その長さだ」一。イタリアの法学者チエーザレ・ベッカリーが、著書「犯罪と刑罰」の中で指摘した言葉です。死刑の次に重い罪とされる、この国の「無期懲役」。だが、その実態はあまり知られていない。無期懲役で収監された人がどう過ごし、どう更生していくのか。人生の半分以上を刑務所で過ごし、このほど仮出所したゆうさん(仮名)の半生を振り返りながら、無期懲役に横たわるさまざまな課題を考えていきたいと思います。

ゆうさんとの出会いは、青猫書房で開かれた、プリズンアカデミーカフェでした。お互

いに参加者としてこの場に居合わせ、それから約1年。無期懲役の実態について、また更生とはどういうことか、その問いを考え続けてきました。そして、今出せうる問いの「解」を社会で共有したいと、ここに一冊の書籍として世に送り出しました。多くの人とともに「無期懲役の今」を考える機会にしたいと思います。

木原育子(きはらいくこ)さん

東京新聞（特別報道部）、精神保健福祉士、社会福祉士。愛知県出身、名古屋大学大学院修了後、2007年に中日新聞社に入社。2015年から東京新聞（中日新聞東京本社）社会部で警視庁や都庁担当を経て、2020年から特別報道部。司法福祉や精神医療、児童養護など福祉に関わる問題を中心に取材中。アイヌ民族を巡る差別問題では、2023年のメディア・アンビシャス大賞を受賞。社会福祉士と精神保健福祉士の資格を取得し、東京新聞特報面で企画連載「社会福祉士⇄新聞記者」を掲載している。共著に「精神病院・認知症の『闇』に九人のジャーナリストが迫る」（ぶどう社）「戦後の地層—もう戦争はないと思っていました」（現代思潮新社）戦時下のある家族を描いた絵本「一郎くんの写真—日章旗の持ち主を探して」（福音館書店）最新刊「**服罪—無期懲役判決を受けた男の記録—**」（論創社）